

月例法話

「いただいた命！」

日時：12月20日(金曜日)10:30～

場所：真言宗東芳山**花鳥寺**寺務所3階

地下鉄東西線「蹴上下車」東へ徒歩約13分南側東山花鳥霊園内、駐車場完備

読経 佛前勤行(真言宗総本山東寺)

法話／土口哲光 住職

終了後「お悩み相談」は事前にお申込み下さい ☎075-593-7800／個別／秘密厳守

土口哲光住職の著書

真言宗総本山教王護国寺(東寺)第256世砂原秀遍猊下推薦の一冊！

「泣いて生まれてきたのだから

笑って死にゆく準備をしよう」

神戸市西区の真言宗御室派長福寺の長男として生まれ、僧侶となるべく高野山大学に学んだ土口住職。日本の全宗教を取材対象とする「中外日報社」に入社し役員となる。退社後は総本山教王護国寺(東寺)に教化部長として入山、「御影供」の「弘法市」より御影堂の唐門の前に立って辻説法を続けていた。

本書は、そんな土口住職の温かい包容力のある人柄を彷彿とさせる珠玉のエッセイ集。

土口哲光和尚の説法／高瀬川だより12月216号寄稿文

《友情も愚かがいい》

先達である愛媛県川之江の定蓮寺曾根義泉前住職がスキルス性胃癌を発症してから五ヶ月で逝去。八五歳の命を最後まで説法で締めくくった。痛まず、苦しまず静寂のうちに高野山大学時代からの親友に看取られ、「ニルバァナー(涅槃)」へ向かった。

人生で死が最も荘厳の時だといわれ、先達の生き方に心を強く引かれた。

春に会った折りとは異なり、夏になると、げっそり痩せこけ、「あなたと同じ病を戴いたヨ。胃が食べ物を寄せつけない」と。「家族も同意のうえ、学生時代からの親友に同行し説法を続けて行

く。ずっとけて、立派過ぎない学生時代のままに、こんな私と共にしてもらえるのが何よりの宝です。友情は愚かもの同士だからこそ続くもの」と。